

「九条の会さかど」ニュース 14年6月26日 第50号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 283-4723 (FAX 兼用) 栗原

平和資料館見学記

末広町 石川裕一

2005年5月28日に発足した九条の会さかどの「9周年のつどい」として、昨年10月リニューアルオープンし「埼玉ピースミュージアム」の愛称が加わった「埼玉県平和資料館」の見学会を行いました。

6月8日(日曜日)、坂戸駅前集会施設に集合して、簡単な打ち合わせの後、5台の車に分乗して、小雨の中を平和資料館に向かいました。

資料館のある東松山市岩殿には14時頃到着し、緑したたる木立に囲まれた山道を登ると、展望塔のついた瀟洒な資料館が現れました。

入り口にある受付前を通ると、右側に世界地図と世界史年表があり、それが終わったあたりの左側に、平和資料館のオリジナルアニメ映画『最後の空襲くまがや』と『青い目の人形物語』を上映している講堂があります。講堂を出るとその先に常設展示室への入り口があり、奥まで見終わると展望塔へのエレベーターがあります。そこから入り口まではギャラリー展示や大壁画があります。



資料館の運営は「指定管理者制度」の導入によってか、新しくなったからでしょうか、雰囲気が変わっていると感じました。

憲法は掲示してないの？

館内の最初の右壁面には大きな世界地図が展示され、国連憲章とユネスコ憲章が掲示されていましたが、「日本国憲法」は掲示されていないのが気になりました。展示室を見終わり一番奥の展望塔へのエレベーターに向かうドアの左側に「憲法前文」を3分の1ほどに抜

粋したものと「憲法9条」が記された50センチ角の読みにくいプラスチック板が、人目につかないように掲示されていました。

資料館を運営している人たちの憲法に対する評価がよくわかりました。訪れた子供たちにも憲法の中身を知られたくないのでしょうか。

戦争は自然には起こらない

ビデオ室では戦闘が終了した戦場の風景が写され、無残な死体がゴロゴロと散乱しています。戦争の悲惨さはよくわかります。しかし、それ以上の説明はありません。

私はかつて広島平和記念資料館と長崎原爆資料館と沖縄県平和祈念資料館を見学しました。そこでは「誰が戦争を起こしたのか」「原爆を投下したのは誰か」を明確にして説明しています。

ところが、埼玉県平和資料館では、あの太平洋戦争は不況を原因にしています。「日本人の糊口を癒すためには仕方がなかった」と言わんばかりです。戦争の悲惨さを展示しただけで戦争がなくなるのでしょうか。

今の日本は、豊かな生産力を持ちながら、国民生活は満ち足りているとは言えません。貧困と格差がかつてないほど広がっています。どこか当時と似ていると感じます。

密室で解釈改憲

テレビでは、政権与党である自民党と公明党が閣議決定で「解釈改憲」を押し通すための協議を伝えています。国民不在で「憲法改定」が実現しそうな状況です。また、財界の要望に沿って、政府は「武器の輸出」まで始めようとしています。

この危険な政治状況に、多くの人たちが立ち向かっています。平和を望み戦争を二度と起こさない反省と決意を込めた「日本国憲法」を守り抜くために「今何をすべきなのか」、私なりに感じた次第でした。平和資料館が平和を願う県民の財産として、「戦争と平和」について考えさせ、指針を示せる貴重な施設になることを念じつつ帰途につきました。(感想は次号に掲載)

7月、8月、平和を心に刻む
2014年ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展
7月26日(土)~27日(日) 坂戸市文化施設オルモ2階
原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会(282-0495 池辺)
戦争を語り継ぐ 子や孫の時代へ
8月10日(日)13時30分~16時30分 坂戸駅前集会施設
勤労働員と風船爆弾工場の思い出(本町の鈴木弘さん)
へいわのうた、など 九条の会さかど(283-4723 栗原)

【投稿】わたしの国は戦争で負けた

伊豆の山 川瀬渉貫

最初に、茨木のり子さんの詩を読んでもらいたいと思う（抜粋し、連の順番を入れ替えての紹介です）

わたしが一番きれいだったとき
だれもやさしい贈り物を捧げてはくれなかった
男たちは拳手の礼しか知らなくて
きれいな眼差だけを残し皆発っていった

わたしが一番きれいだったとき
まわりの人達が沢山死んだ
工場で 海で 名もない島で
わたしはおしゃれのきっかけを落としてしまった

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争で負けた
そんな馬鹿なことってあるものか
ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

戦争で負けたとき、この詩人茨木のり子は19歳、学徒動員で世田谷区上馬にあった海軍第一療品廠で就業中に敗戦の放送を聞かされた。

乙女心の扱い方も知らぬ、きれいな眼差しの青年たちの多くが九段にある靖国神社に帰って行ったに違いない。

そう言えば、4月の靖国神社春季例大祭には、「みんな靖国神社に参拝する国会議員の会」の老会長や政権党の女性政調会長を先頭に、何人かの閣僚も含め150名あまりの議員先生がスポンサー然と参拝していた。狼少年よろしく毎回旗を振る我がシンゾウ首相は、今回はバラク訪日を控え「残念」な結果を招かぬよう真榊奉納だけにとどめたようだが、彼ら彼女らは「九条」を読み替えても、自らが地球の裏側の戦場に赴くことは絶対にはないだろう。

1954年の自衛隊発足（防衛庁設置）から2ヵ月後に生まれた安倍首相は、当然のことながら先の大戦の体験もなく「敗戦」を天災のように「終戦」と捉え、「戦後レジュームからの脱却」を連呼しながら原発や武器のセールスに勤しんでいる。昨13年度には「死の商人」よろしく30カ国も歴訪し、4億円の外遊予算では間に合わず他から更に1億5千万円をかき集めて対応したという。

東北被災地の安全回復や世界紛争地域の平和よりも金もうけのほうで大事で、アベノミクスのかんばしくない経済の穴埋めに、何本目かの成長の矢にしようと考えているように見える。そのために、1967年に叔父さんである佐藤栄作首相から始まった「武器輸出三原則」を反故にし、原発ゼロをやめにするエネルギー基本計画を決定し、情報隠しの秘密保護法を制定し、「集団的自衛権」とやらの発動を急いでいる。

軍産複合体の米国のお先棒をかついでさえいれば、武器・装備品の販途に事欠かない。その代わり、戦闘に勝っても負けても、戦死者が日本では70年ぶりに出

てくることを否定できまい。靖国神社と仲良くしておくに越したことはない。祭政一致の憲法改正が必要かな？ また「解釈改憲」で誤魔化すか？ 「戦後レジュームからの脱却」も忙しい。（冗談もイノチガケか）

坂戸の戦跡(5) 厚川の大栄寺「納翼の碑」

千代田 大久保俊秀

坂戸には陸軍坂戸飛行場が造られ、本部が現在の法務局坂戸出張所に置かれていたことは、広く知られているところでは。

しかし、日高市にあった陸軍高萩飛行場の本部や兵舎が、戦争末期に坂戸に置かれていたことは、多くの市民は知らず貴重な発見でした。たまたま厚川の大栄寺でこの碑を見つけ、旧大家村の住民や住職に聞き取り調査をした結果、様々なことが分かりました。爆撃が激しくなり1945年1月、高萩の航空士官学校は練習場所を確保のため満州に転進。空いた高萩飛行場に、陸軍飛行第一戦隊が再編配置され首都防空の任に当たりました。

本部は旧大家村役場（現在のJA）に置き、約200名の兵隊は西光寺などの寺を兵舎とし、将校は個人宅に寄宿。調理場は、料亭の庭に高萩飛行場から運んできた鉄骨で作られ、その下で200名分の食事を作って兵舎に運びました。住民たちは、若い兵士たちが将校たちにゲンコツで殴られる場面を度々目撃し、嫌な思いがしたと証言してくれました。

戦争末期制空権を支配されている中、若い兵士たちの出撃は死地に向かうことであり、出撃前に兵舎の前で撮った写真が遺影となり寺に残されています。

「飛行第一戦隊納翼の碑」は、坂戸に本部や兵舎があったことを記す貴重な石碑であります。石碑の下部には、高萩飛行場で発見された四式戦闘機（キ-84）の炎上融解片が貼り付けられています。

旋回性能の低い四式戦闘機に乗り、特攻隊と同様敵機に突撃して亡くなった若い兵士たちの無念さを、今に知らせてくれる碑でもあります。

今後の運営委員会（会員なら誰でも参加できます）

7月24日（木）10時～12時、8月28日（木）10時～12時

北坂戸出張所内「坂戸市民活動交流フロア」会議室（溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印）

